

5-15 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その19）

Crustal Movement Observation in the Fuji River and the Suruga Bay Area (Part 19)

東京大学地震研究所 地震地殻変動観測センター 富士川地殻変動観測所
Fujigawa Crustal Movement Observatory, Earthquake Observation Center
Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

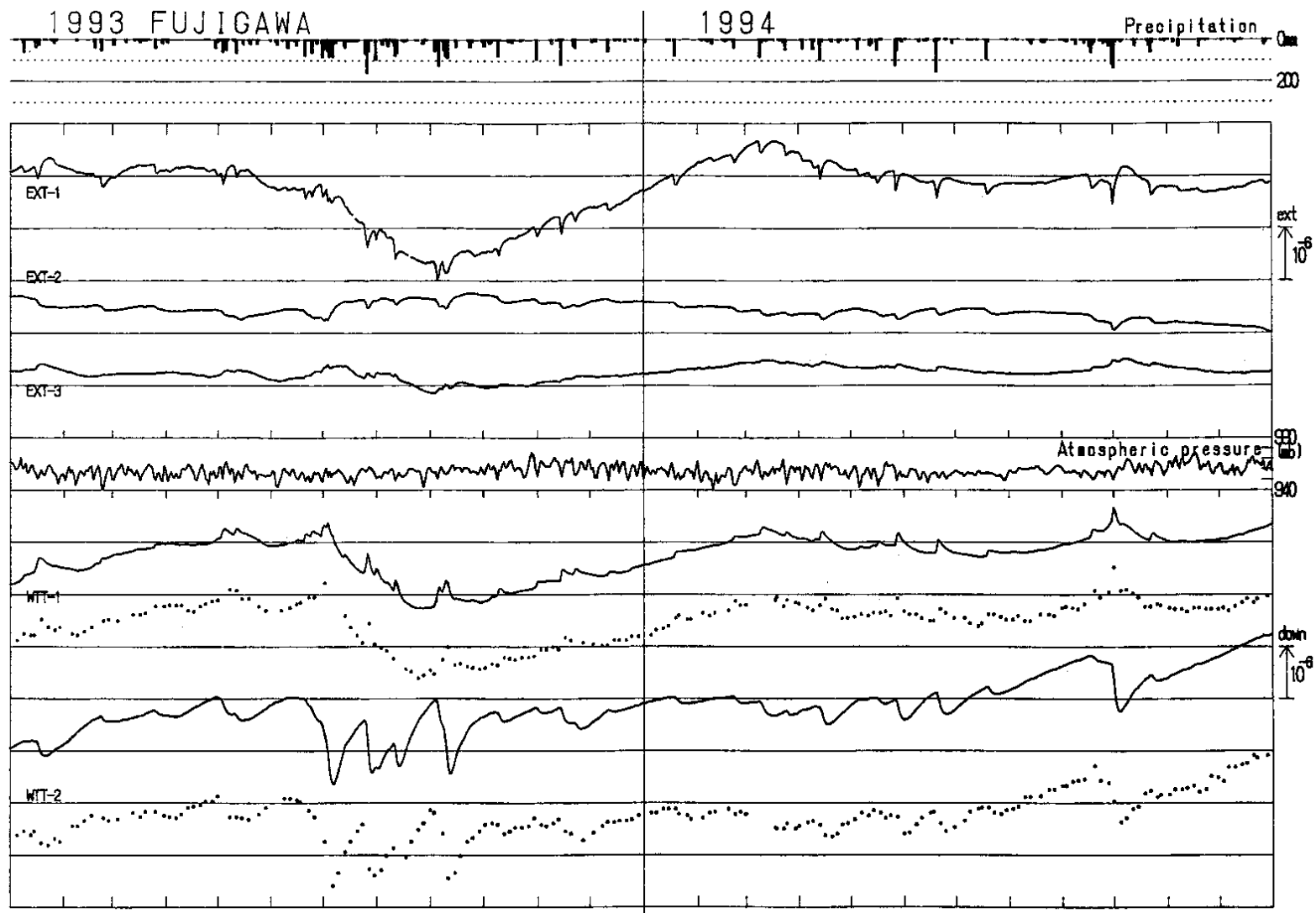
前報¹⁾に引き続き富士川観測所における1993年から1994年の観測結果について報告する。第1図には水晶管伸縮計 (EXT)・フロート式水管傾斜計 (FWTT)・気圧の日平均値を、読取式水管傾斜計においては読み取り値を、雨量については日雨量をそれぞれプロットしてある。この図を見るかぎり特に目立った変化は見受けられないが、1994年は降雨量が前年度に比べ1010mm程少なく、歪・傾斜変化が比較的安定している。第2図に読取式水管傾斜計の月平均値とその12ヶ月移動平均値・月別降雨量・年間降雨量を示し、第3図に月平均値に基づく傾動ベクトル図 (12ヶ月移動平均値)を示す。1992年に東下がりの顕著な傾動があり、1993年の傾動の停滞の後、1994年より東下がりの傾動が見られる。

第4図は富士川微小地震観測網により震源決定された微小地震の中から奥山観測点より±5kmの範囲で起こった地震の日別回数である。1993年の傾動ベクトルの停滞の時期と1992年後半から1993年にかけての微小地震の活発な時期との対応が注目される。

第5図は富士川微小地震観測網で決定された1994年の半年間ずつの震源分布図と時空間分布図である。奥山観測坑周辺とその西方の糸魚川～静岡構造線に沿った微小地震が活発である。富士山付近での地震も観測されている。

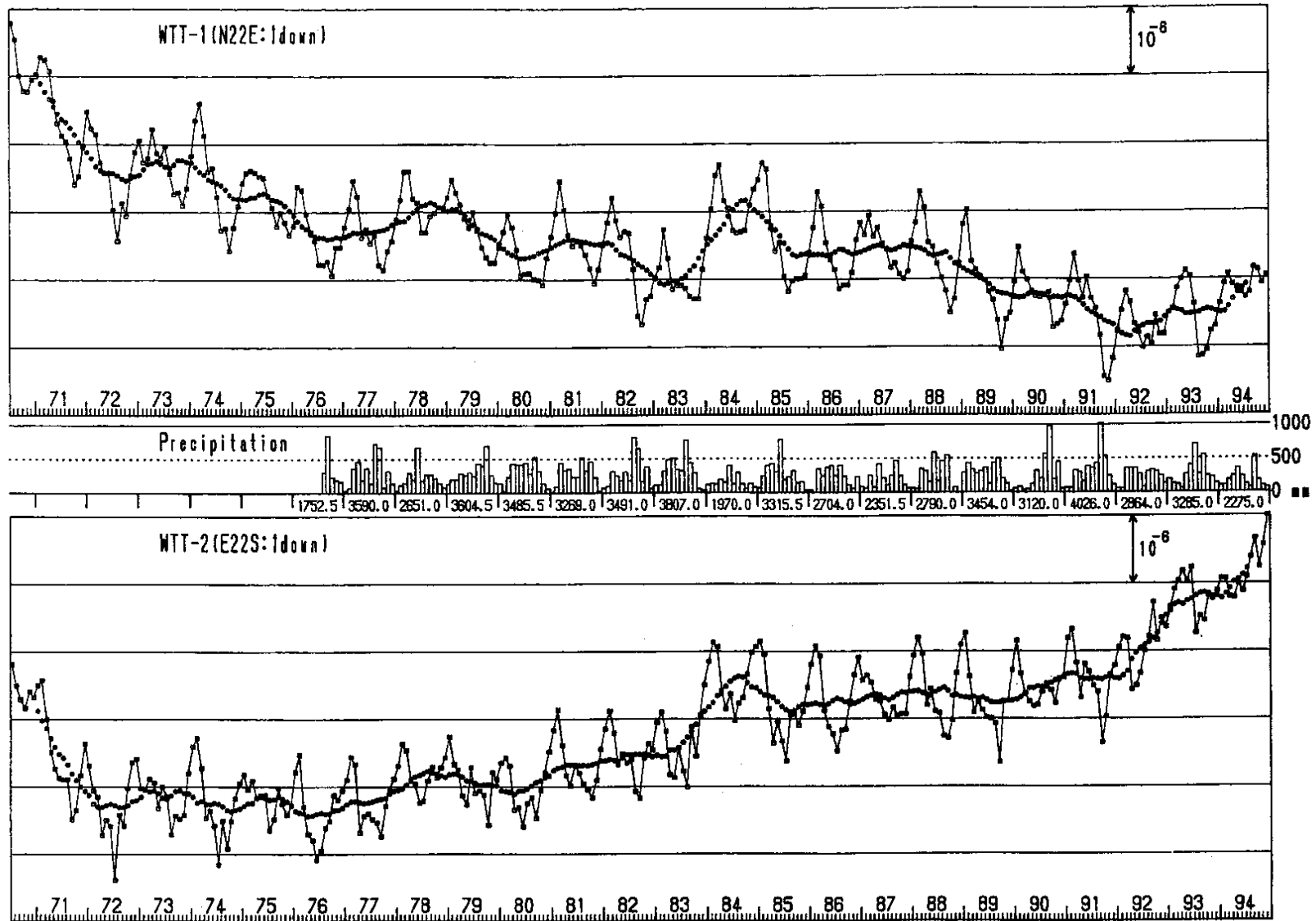
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所：富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その18），連絡会報，**52**（1994），385-395.



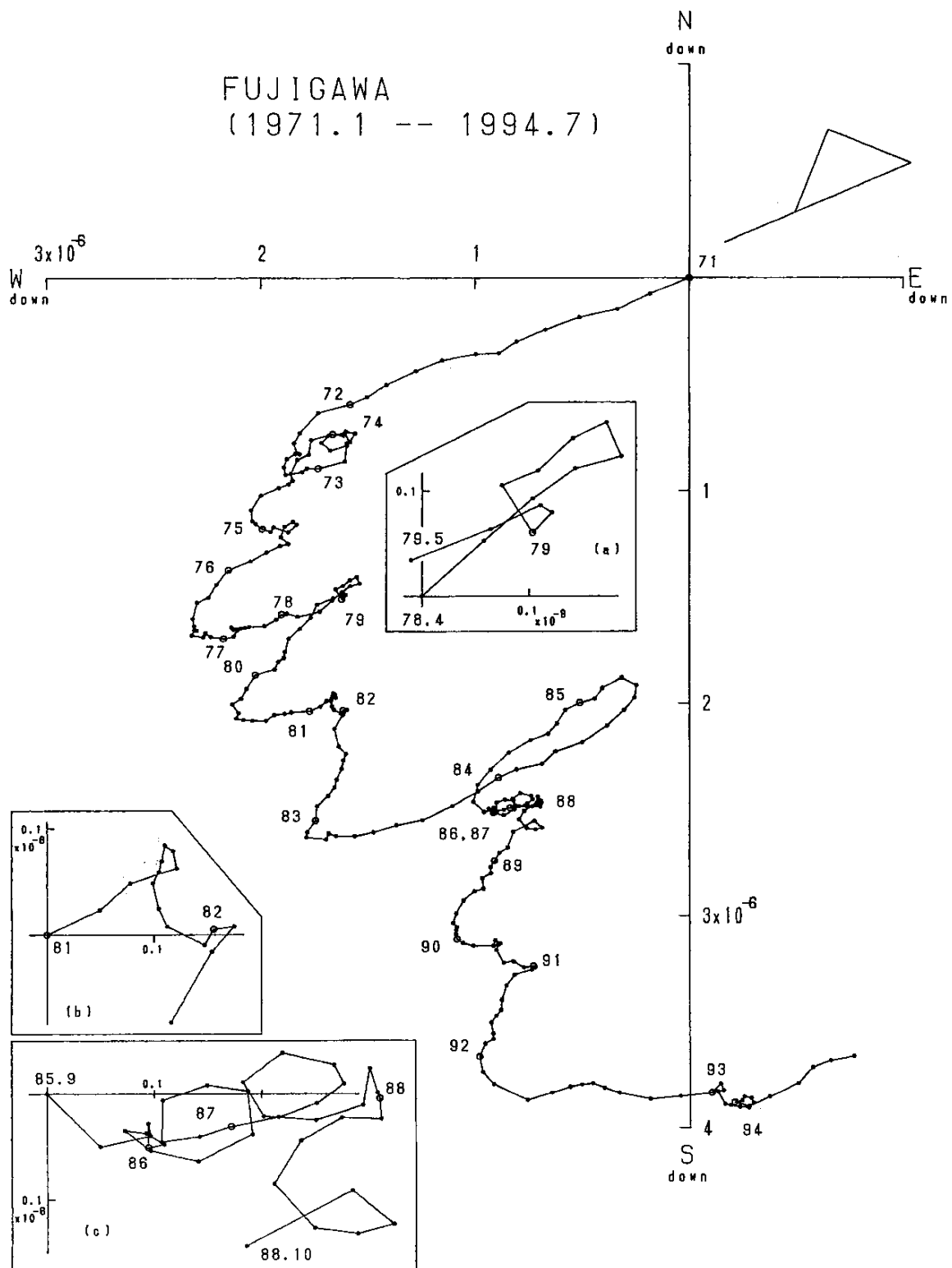
第1図 富士川観測所における水晶管伸縮計，水管傾斜計（実線＝フロート式：点線＝読取式），気圧の日平均記録および日雨量記録

Fig.1 The earth's strain, tilt (solid lines = float type WTT : dots=reading type WTT), atmospheric pressure (daily average) and daily precipitation at the Fujigawa observatory in 1993-1994.



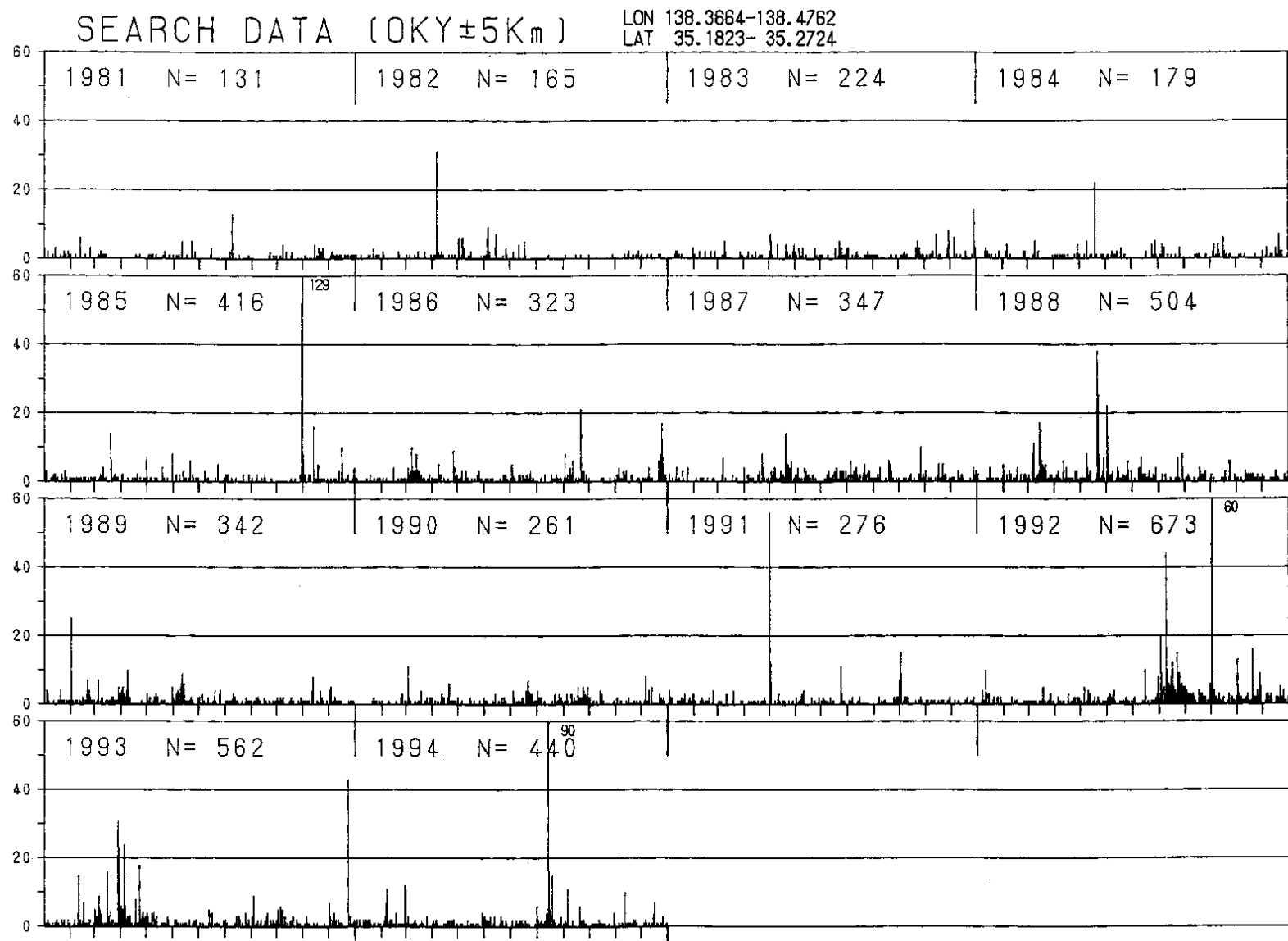
第2図 読取式水管傾斜計による累積傾斜変化 (□=12ヶ月平均値 : ○=12ヶ月移動平均値), 月別・年間降雨量

Fig.2 Cumulative tilt change by reading type WTT (□=monthly mean : ○=after 12 month's running mean), Monthly and Year precipitation.



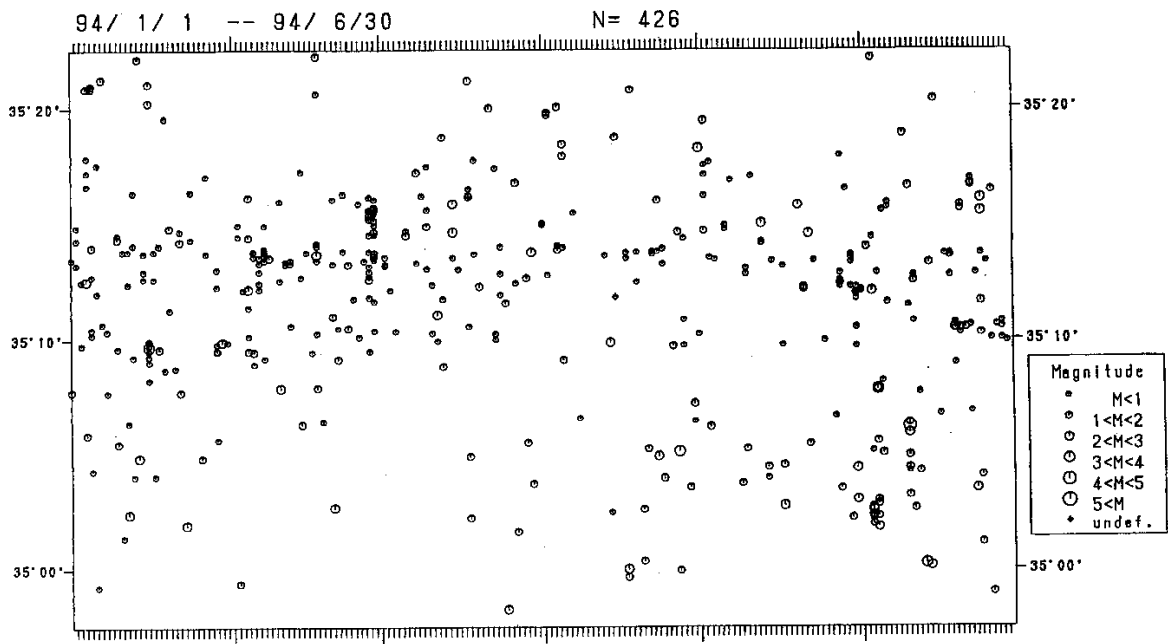
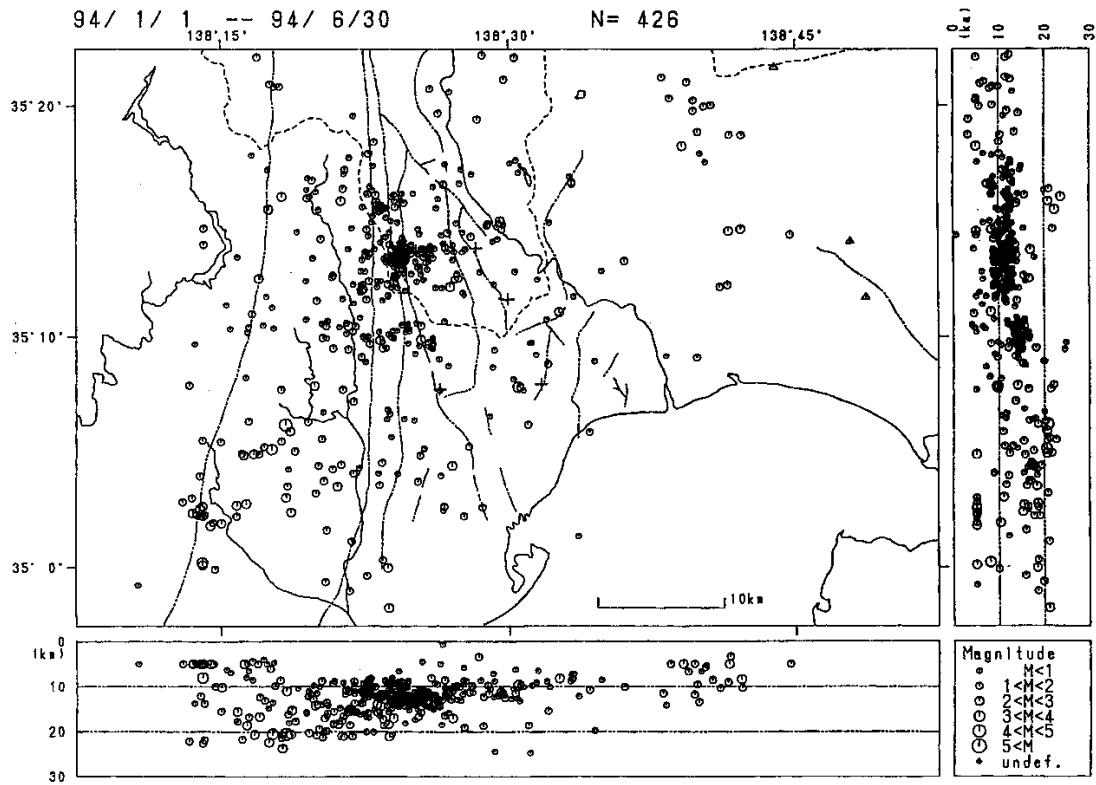
第3図 読取式水管傾斜計による永年傾動ベクトル図

Fig.3 Filtered secular change in the ground tilts and its vectorial presentation.

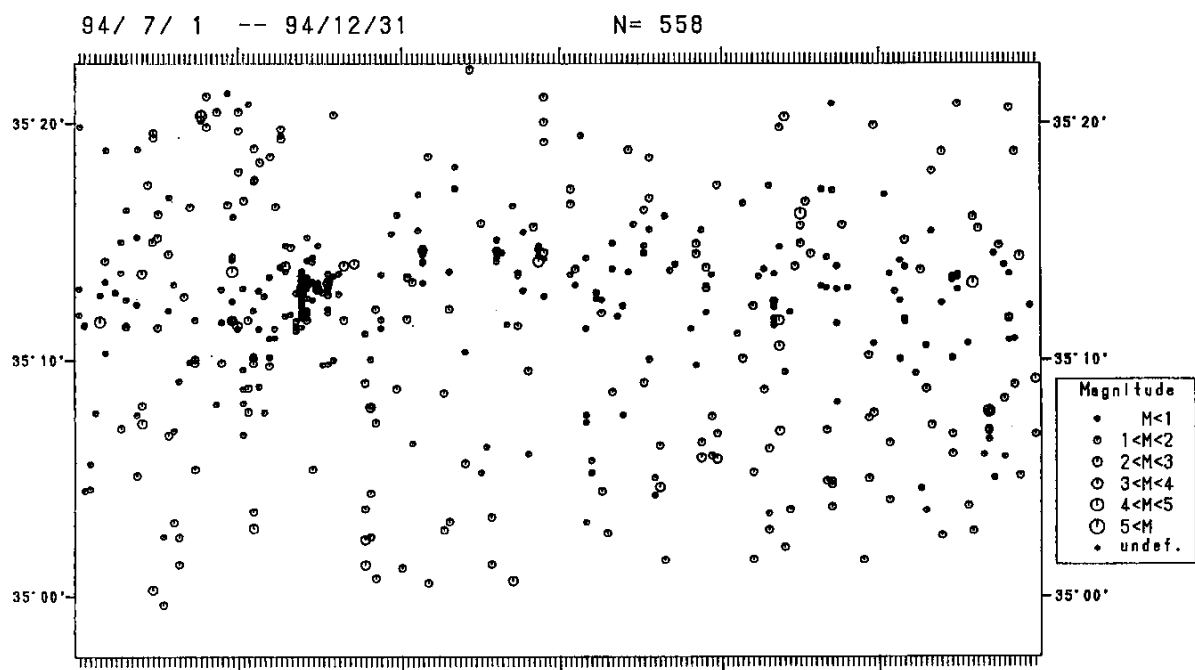
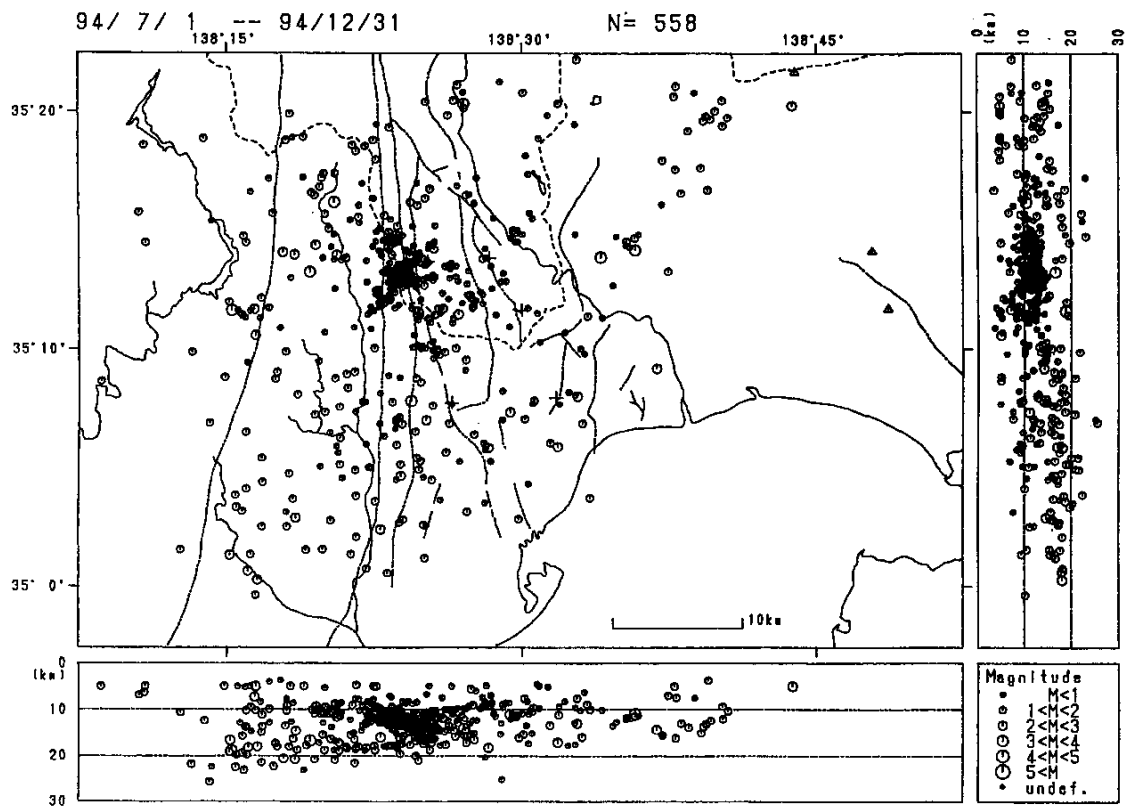


第4図 奥山観測坑から±5km の日別地震活動状況

Fig.4 Micro earthquake activities near the Okuyama station. The epicentral distance is less than 5km from the Okuyama station.



第5図 震源分布図, 時空間分布図 (1994年1月~1994年6月)
 Fig.5 Hypocenter distribution and time-space diagram (1994. 1-1994. 6).



第6図 震源分布図，時空間分布図（1994年7月～1994年12月）
 Fig.6 Hypocenter distribution and time-space diagram (1994. 7-1994. 12).